第４１回 公益社団法人 宮崎県柔道整復師会学会 報告

相馬崇宏

例年では宮崎観光ホテルで行われていた学会ですが、今年は、宮日会館の宮日ホールで行われました。

　経緯として、例年使っていた観光ホテルの広間ですが、使用出来なくなったのが一つの理由と、新型コロナ感染症が落ち着かない中で三密を避ける目的で、広い宮日会館の宮日ホールを使用することとなりました。

　Zoom配信も併せておこなうことで、三密を避け学会参加が出来る試みを行いました。今後もこの試みは続けていきたいと思っております。

今年の学会発表では、３年分の論文発表を行いました。

都城支部の中西秀一会員による「食事トレーニングによる内蔵負荷が投球競技者の上肢障害のリスク因子としての可能性について」、延岡支部の奈須康哲会員による「鎖骨外端部骨折の一考察」、高鍋支部の森雄三会員による「異なる２種類のテーピングの組み合わせによる疼痛の緩和に関する考察」、宮崎支部の中村真之会員による「TFCC損傷を疑われる手関節捻挫の治療」、4名の先生方の日ごろ培ってきた経験や技術が詰まった論文を惜しみなく披露していただきました。お忙しい中論文作成に携わった発表者及び学術部員の皆様、この場をお借りしましてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



　会員講演も、延岡支部の山本裕太郎会員による「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO‐AT）について」と、延岡支部の奈須崇倫会員が代表して「東京オリンピック２０２０　競技医療救護活動報告」が講演されました。

　お二方の体験されたことを分かり易く伝えていただいた内容だったと思います。学会に参加した先生方は、何らかの糧になったのではないでしょうか。



　今回学会に参加された先生方にとって、医師会講演は今までの認識を大きく変えた内容だったのではないでしょうか。

　一般社団法人弘潤会 野崎東病院 整形外科部長を務められております、福田一先生による「股関節の手術治療」について講演されました。

　今までの股関節の手術法から現在の技術の進歩について、お話をしていただき、ついでに膝の手術治療についても講演していただき、予後の悪いイメージのあった膝の手術も多くの場合は、軟骨部分を剥いで軟骨に代わる器具を入れることで、パフォーマンスが高い状態で保てる方法が今はあることを詳しく教えていただきました。

　参加された先生方にとって良い学会になられたのではないでしょうか。

来年もより良い学会運営が出来ますよう、会員の皆様のご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

